

# うるわし通信



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

令和3年1月

## 新時代・地方創生のチャンス

みなさま、新型コロナウイルス感染急拡大の中での新春、いかがお過ごしだったでしょうか。

昨年来、日本でも海外でもコロナ禍が猛威をふるい続け、そのため当会の設立10周年の一連の企画も延期せざるを得ない状況が今も続いています。恒例の新春交流昼食会も取りやめることといたしました。

いつ終わるとも知れぬ不安感が社会を覆っていますが、いまだ少し、辛い時期を耐え抜き、今年はなんとか明るい年になるよう願っています。

一方コロナ禍は新しい世界も開きつつあります。大都市圏への人口集中やインバウンド観光に頼った経済戦略のリスクが表面化し、テレワークやオンライン会議などの有効性が確認されたことから、今後デジタル田園都市の可能性が大きく開けてきました。

「リモートで田舎暮らし」が憧れの暮らし方になります。

長距離通勤や時間外労働に追われる人生が果たして幸せなのか、コロナで家族と暮らす時間が増えて、人々の価値観が見直され、働き方が変わってゆくでしょう。

オフィスが大都会に必ずしも立地する必要がなくなれば、通勤に近い住宅、豊かな生活のできる場所が選ばれます。これは、またとない地方創生のチャンスです。

桜井市のように自然と歴史文化に恵まれ、医療や教育福祉も充実、物価は安く、空気もきれいで都会へのアクセスも良い地域は、豊かな生活を送る条件が整っています。今のうちに サテライトオフィスや移住者受け入れのための条件整備をハード、ソフト共に整えなければなりません。

当会はこれまでも市の景観条例の制定や、各種の街並みを整える取り組みに参画してきました。何よりもまず乱立するけばけばしい看板や見苦しい街の風景を心地よいものに変える必要があります。汚く取り乱した家に客は来ないのと同じで、美しく心地よい街こそが、移住者・来訪者が訪れる街となります。

コロナの不安におびえるだけではなく、勿論万全の予防策を取りながらも、その先を見据えて、神なびのまほろばの里にふさわしい街づくりを着々前に進める今年にしたいと思っておりますがいかがでしょうか。



うるわしの桜井をつくる会 会長 堀井良殷

## 土舞台顕彰会 50周年に向けて



土舞台顕彰会

会長 河村 喜太郎

(飛鳥学院理事長)



皆さんは、桜井小学校（桜井市谷957）の西側に「土舞台」と呼ばれる小さな台地（桜井公園内）があることをご存知ですか。明日香村の「石舞台」はよく知られていますが、土舞台のことについては、知っておられない方もおられるのではないのでしょうか。

推古天皇の時代に摂政であった聖徳太子が、「百済の人である味磨之（みまし）により伝えられた伎楽舞（くれのうたまい）を、桜井の地に少年を集めて習わしむ」と『日本書紀』に記されています。

この地、桜井の土舞台こそ、人々が語り伝え、守り伝えた日本の“芸能発祥の地”とも言えます。このことにちなみ、桜井市主催で今から48年前の昭和47年11月4日に、郷土出身の文芸評論家 保田與重郎氏の染筆を得て、土舞台の碑を建立・除幕の式典が行われました。

当日は、ノーベル賞受賞者 朝永振一郎博士、芸能界より森繁久彌・岡田真澄・名古屋章、女優の岸田今日子・赤木春恵さんなど、市内外各界からの来賓の参加の下、多くの市民の参加を得て顕彰式典がおこなわれました。

顕彰活動はこの間、市民芸能大会や『箏能』と呼ばれる野外能（市民会館での開催は平成3年より）の30年間の開催、伎楽の上演や万葉まつりでの「歌語り」の開催、ユーラシアアンサンブルの上演等を通じて、今日まで土舞台顕彰会が継承して来たところです。

私は、第3代会長の宮本貞昭氏よりバトンタッチを受けて、新しく会長に就任いたしました。桜井は古代より磐余の地として、歴史的に意義深いところです。聖徳太子が幼少の頃に居られた上之宮や、父である用明天皇の磐余池辺双槻（いわれいけのべなみつ）宮、舒明天皇が創建した百済大寺（吉備池遺跡）などが点在し、記紀万葉に謳われたところです。

48年前、当時の池田栄三郎市長より「日本芸能のメッカであることを再確認いたし、この顕彰と保存のための市民あがりの文化運動と致したい」と呼びかけられたように、土舞台顕彰50周年を迎える令和4年秋に向け、地域の歴史と文化活動の復興を目指して、尽力していきたいと思っております。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。



昭和47年11月4日の除幕式典

## 「うるわしの桜井」を創造すること

『うるわしの桜井をつくる会』が創立されて10年、早くもあり、また、長くも感じます。活動を支えてこられた皆様に心より感謝申し上げます。

この10年の都会の変化を見れば、桜井は大きく変わったところはあまりないように思えますが、変わらない風景があることがこの地の良さなのだと思います。

先日、高校時代の友人に桜井は昔とても栄えていたそうですね、と言われました。その友人は桜井が奈良県にあることすらよく知らなかったようで、栄えていたというのは古代の事を指して言っていました。日本の歴史に全く興味のなかった友人でしたが、桜井のことを何かで知って関心を寄せてくれたことを嬉しく感じました。

2020年はコロナ禍となったことで、海外渡航も出来ず、国内に目を向ける機会が増えたと思います。桜井には名跡や古刹が多くあり、紅葉の頃には自粛が緩んでいたこともあって談山神社や長谷寺は多くの観光客が訪れていました。今後コロナの動向がどのようになっていくかは検討もつきませんが、多くの人の関心が日本国内に向いている機に、今後の活動として桜井の美しい風景や伝統を支える人々を通して日本創生の歴史を紹介する映像を配信してみてもいいのではないでしょうか。歴史など今更、と言われるかもしれませんが、桜井の美しい風土とその背景にある物語を伝えて行くことは、いつの時代になっても重要であり必要とされています。

情報発信の必要性は今までも言われてきたことですが、すでにある価値を情報として発信するのではなく、発信する情報に「うるわしの桜井」としての価値を付加することがこれからの情報発信のあり方と考えます。

すなわち「うるわしの桜井」を創造していくということです。映像を撮ったり配信することも簡単にできるようになりました。特定の場所に人を集めることが難しい状況の今、より多くの人に向けて発信することが求められるのではないかと思います。



うるわしの桜井をつくる会  
常任理事 榮嶋まゆみ 氏



紅葉の談山神社

## 第10回新春交流昼食会の中止について

奈良県でも新型コロナウイルス感染症が急速に増えていることもあり、前号で開催を呼びかけました恒例の新春交流昼食会は、中止とさせていただきます。ご了解ください。

## お知らせ

### ●環境問題を考える講演会開催

地球規模の気候変動が多発し、環境への負荷の少ないエネルギーの見直しも焦眉の課題となっています。今回、環境活動家の谷口たかひさ氏を招いてのお話し会を、共催することとなりました。是非ご参加ください。

テーマ『みんなが知れば必ず変わる！』 詳しくは、別紙チラシを参照。

日 時：2021年2月10日(水)午前10時～(44人)

午後2時～(36人)の2回開催

場 所：まほろばセンター2階

参加費：無料

\*コロナ対策のため、事前申し込み制です。(先着順)

申込先 shiba\_em\_club@yahoo.co.jp まで連絡ください



谷口たかひさ氏

### ●桜井図書館友の会

令和3年1月と2月の読書会は、指定書籍を設定せず、両日とも『地球と環境』についてお薦めの本をご持参いただき、開催します。

日 時：1月26日(火)15：30から

日 時：2月23日(火)13：30から

場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室

(エルト桜井2階内)

\*問い合わせ先

浅川 肇 TEL：090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



国連が採択した持続可能な開発目標

【編集後記】 コロナで終始した1年が過ぎ、新しい年を迎えました。しかしまだ、その収束は見通せない状況です。医療・介護・保育・教育等々の現場で日夜奮闘頂いている関係者の皆さんに心より感謝申し上げます。

コロナ倒産や失業・雇止めなど厳しい現実が、日々の感染者数増大の下で進行しており、今後も増える事態に直面することになります。「三密」回避対策と併せて、生活を守り、地域の分断を招かないよう、私たち一人一人の自覚ある行動と危機感の共有を！

うるわし通信発行人  
高瀬 安男  
TEL:090-1678-9157

(編集子 楠木 克弘)